事例共有会
保育園のアウトリーチ型地域親子支援

2026年4月30日(木)　13:30～14:30

こどもたちのために、日本を変える
Florence

本日の流れ

13:30–14:30

事例共有会

1. 「人口減少地域における保育機能確保・強化のためのモデル事業」等
地域における保育所の役割について
／こども家庭庁成育局 保育政策課 大野久様

2. 保育園のアウトリーチ型地域親子支援の取り組み共有
／フローレンス利守、中村

3. 質疑応答

14:30–15:00

意見交換会 自由参加

こどもたちのために、日本を変える
Florence

本日の問い

- 子育て家庭を取りまく環境変化の中で、地域の親子支援のために「保育園」ができることはなにか

- 一時預かりや子育てひろば、誰でも通園制度など、既存の子育て支援の仕組みを利用できない「孤立家庭」のために、保育園は「待つだけの支援」しかできないのか

現代の子育て家庭の「孤立」

- 親子を取り巻く社会環境は変化し、かつての日本のように、地域の様々な人がでこどもを見守り、育む基盤は失われつつある。

核家族化

晩婚化・祖父母の就労/高齢化

ご近所づきあいの減少

地域でこどもを育む基盤は崩壊しつつある…

ひとり親

慣れない地での子育て

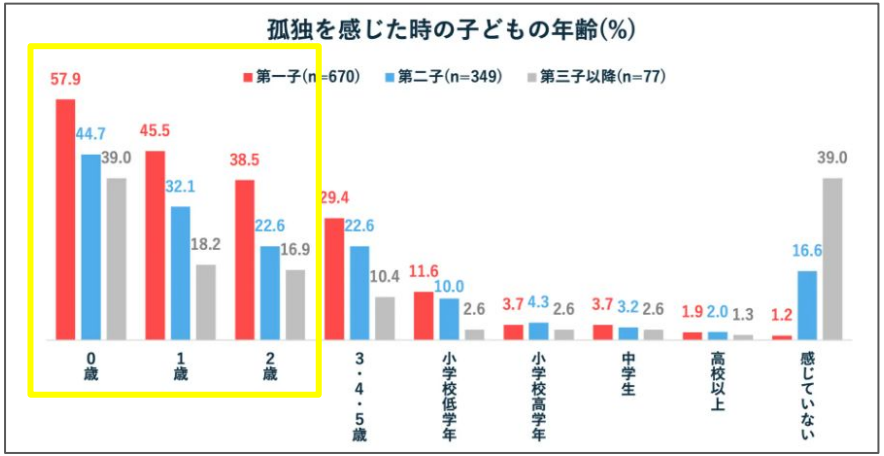
女性の社会進出

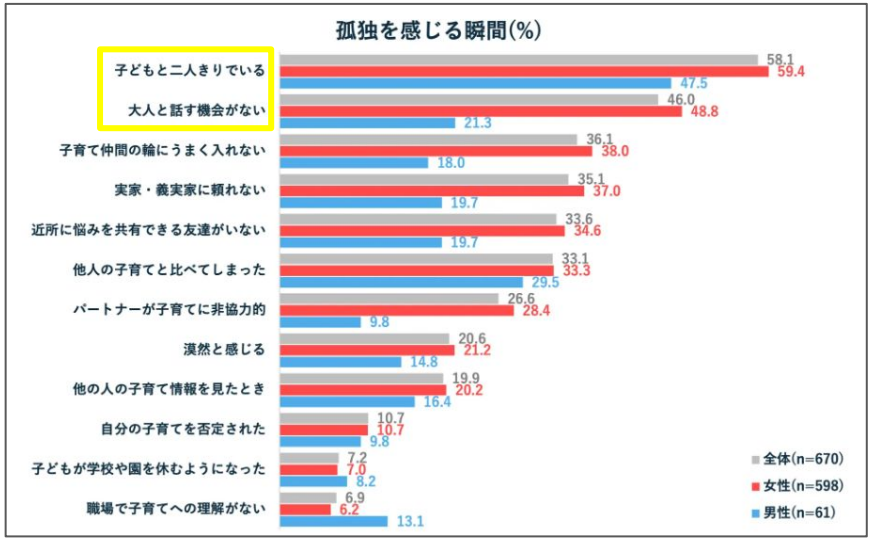
など

【参考】現代の子育て家庭の状況（1/3）

第一子の０歳育児を行う保護者 <u>５割以上</u>が孤独を感じている

- 第一子が0歳の時は57.9%の人が孤独を感じる
- こどもが大きくなるにつれて孤独を感じる機会は減少するが、こどもの人数に関わらず、こどもが０歳の頃は孤独を感じやすい傾向がある
- **「こどもと２人きりでいる」**ときや**「大人と話す機会がない」**ときに孤独を感じやすい

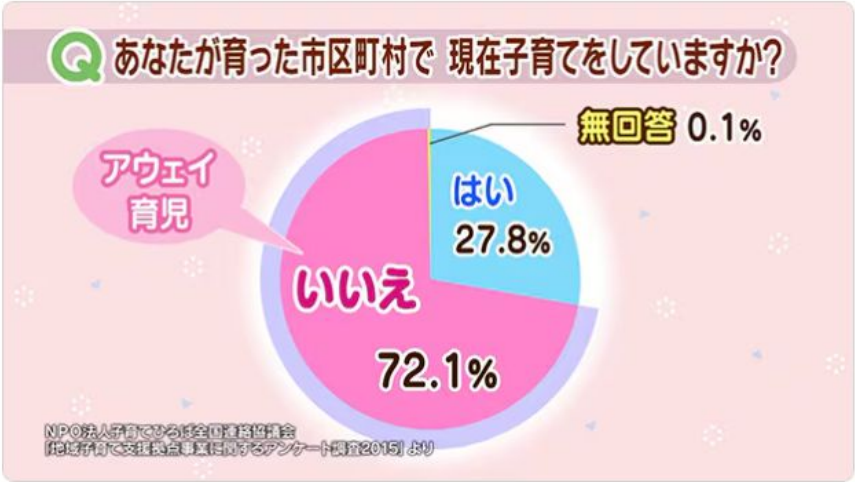




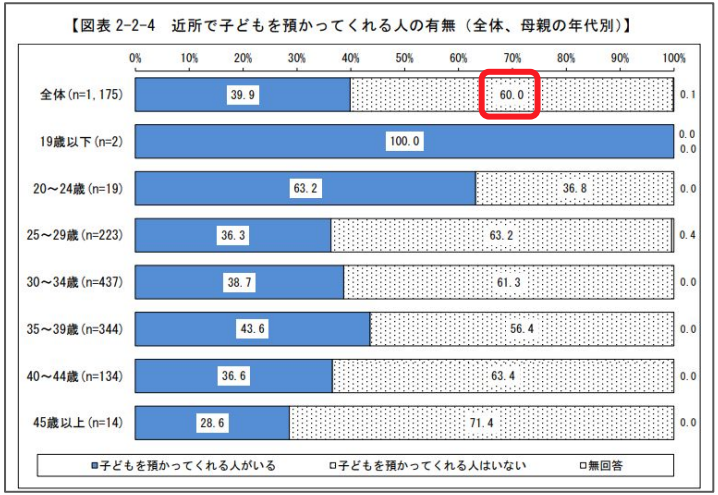
※「孤育てに関するアンケート」令和6年、PIAZZA株式会社

【参考】現代の子育て家庭の状況（2/3）

核家族化や地縁（地域のつながり）減少で
周囲に頼れる人がいない”孤育て”家庭が増加



「頼れる人のいない子育て～アウェイ育児の乗り越え方～」NHK（2023年12月2日放送）
https://www.nhk.jp/p/sukusuku/ts/DNYRMZW5Q1/episode/te/EJNQ5JPYM3/

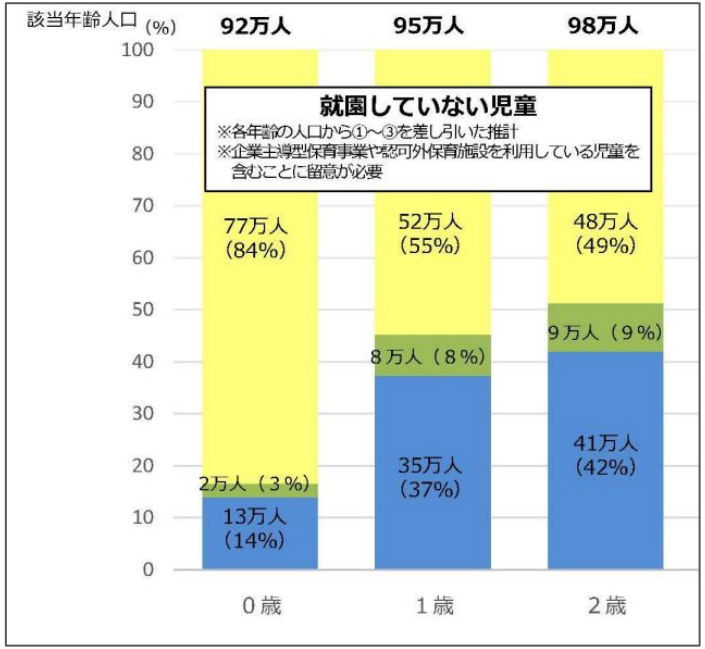


「地域子育て支援拠点における「つながり」に関する調査研究事業 報告書」ＮＰＯ法人子育てひろば全国連絡協議会（2017年）

- ７割の母親が生まれ育った場所を離れて育児をしている
- ６割の母親は近所でこどもを預かってくれる人がいない

【参考】現代の子育て家庭の状況（3/3）

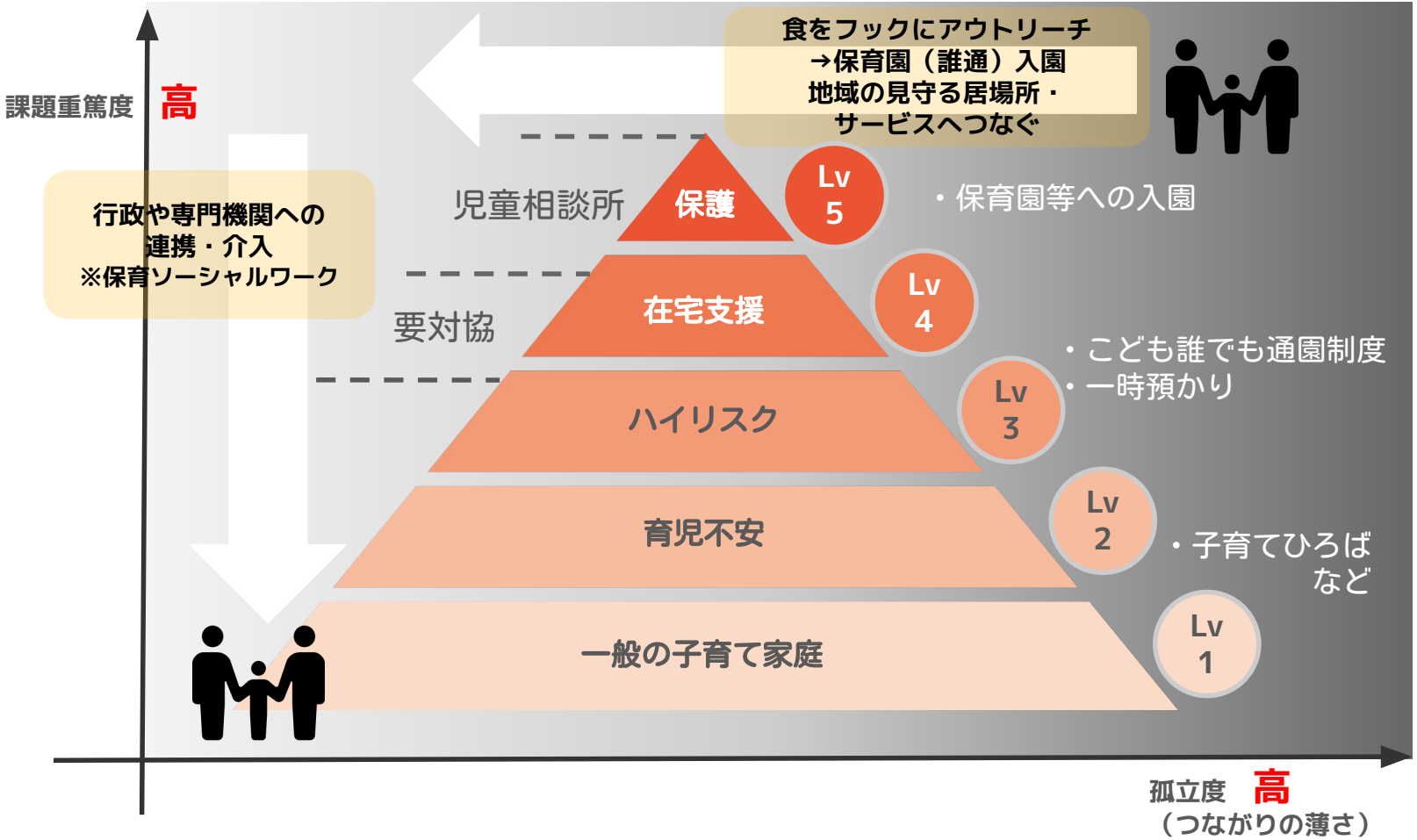
０～２歳の多くは保育園等に通っていない「無園児（未就園児）」
→社会とのつながりが希薄



- **０～２歳児の多くは、保育園や幼稚園などに通っていない「未就園児」**で、特に、0歳児の84%は家で過ごしている。
- つまり、0～2歳児家庭は地域の社会資源とつながりにくく、**支援が不足**している。

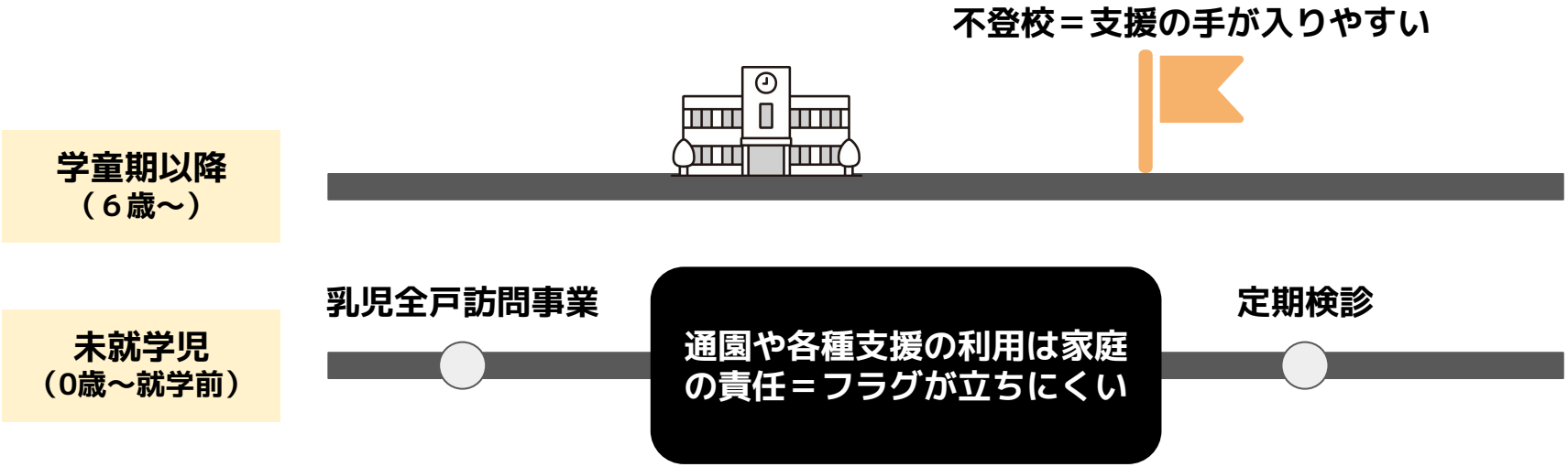
※全世代型社会保障構築会議　基礎資料集（令和4年9月28日）、内閣官房

「孤立」を防ぐことが課題の重篤化を防ぐ



未就学児のいる家庭の「孤立」に気づきにくい構造

- 未就学児の通園や支援の利用は、基本的に**家庭の責任**において決定する。保健師等による定点観測・見守りの機会はあるものの、見守る目に「スキマ」が生じている。
- 未就学児のいる子育て家庭は、学童期以降のこどもがいる家庭と比較しても孤立に陥りやすい。2023年度に虐待により亡くなったこどもは６歳未満が全体の9割(※)を占める。



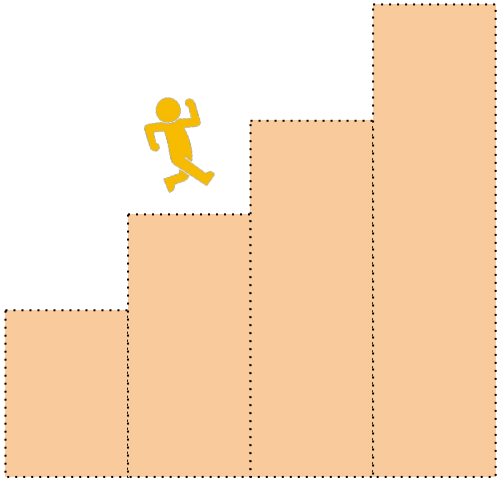
※「こども虐待による死亡事例等の検証結果等について（第20次報告）」令和6年9月、こども家庭審議会児童虐待防止対策部会　児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会

弊会のこれまでの取り組みから見えてきた課題

情報収集や外出のハードルが高い、援助希求力が低いご家庭とつながるためには…？

援助希求力　低

孤立し、頼り先がない。
家でこどもとふたりきり



援助希求力　高

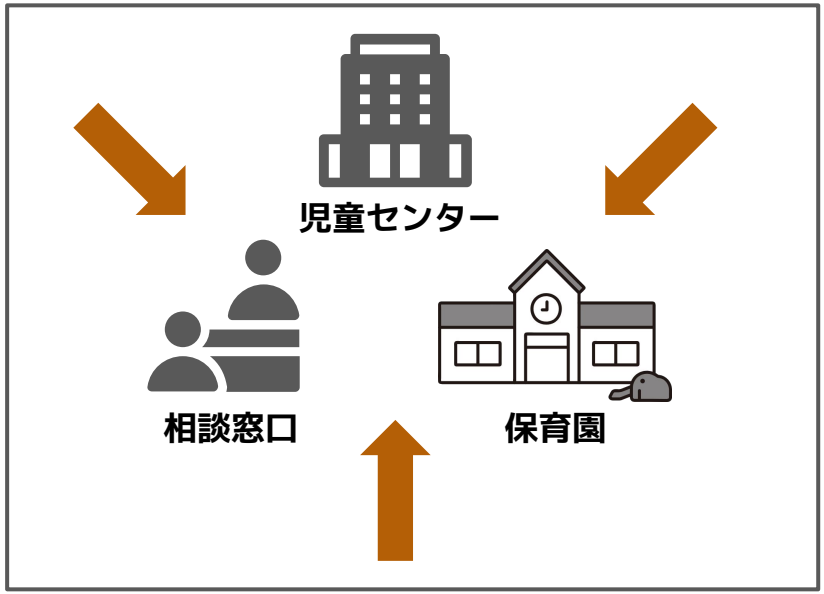
利用できる支援情報を
取りにいくことができる・外出できる

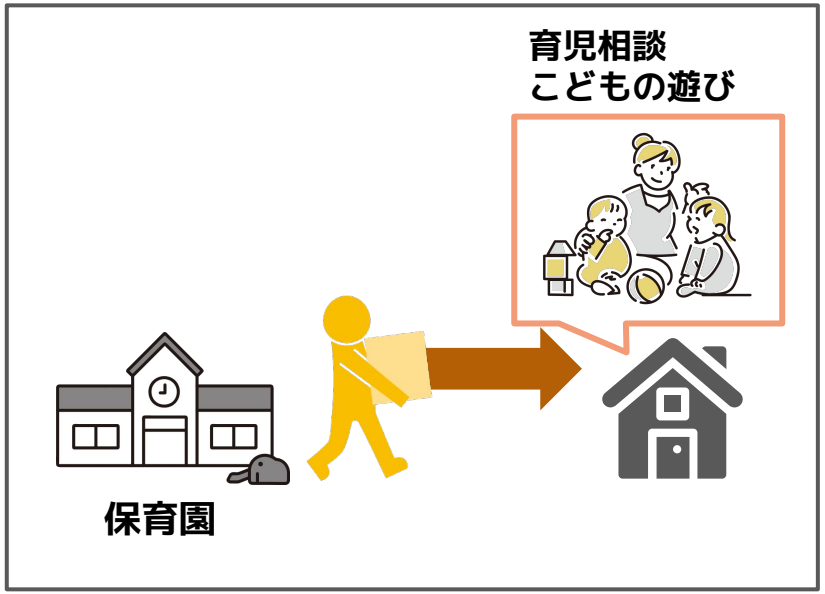
- 2019年から、保育園で開催する**こども食堂、フードパントリー**を実施。
- 活動の中でつながったご家庭は、情報を得て外に出られるご家庭が多く、地域に確かにいる「園に来る」ハードルを超えることが難しい家庭に、どうリーチするか？が課題。

25年度トライアル事業の目的：

孤立しがちなご家庭に
アウトリーチして「つながる」

待つ支援から出向く支援への転換





「待つ支援」

情報にたどり着ける人としかつながる
ことができない

「アウトリーチ」

外出が難しい、孤立しがちな家庭に
出向き、つながる

取り組みの概要

園で「待つ」のではなく、こちらから「出向いていく」アウトリーチ支援にトライしました

対象家庭	東京都内の自園が所在する区内にお住まいの妊娠期～０歳児の赤ちゃんがいる家庭
実施期間	2025年11月～2026年３月
訪問世帯数	20世帯
訪問頻度	月1回（最大3回）
訪問者	保育スタッフ2名
実施内容	オムツ、ミルク、食材などを持って家庭訪問、30分～1時間程度滞在。 保育や育児相談など実施。
申し込み	子育て支援施設や地域内に掲示されているチラシから、ご家庭が直接申し込み

企画設計の道のり(1/2)

企画設計	体制検討・予算確保	フロー作成・論点整理	各種ツールの作成
STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4
● ゴール設定 ● 企画詳細の検討	● 体制の検討 ● 予算の確保 　○ 寄付 　○ 補助金	● フローの作成 ● 論点の検討 ● リスクマネジメント	● チラシ ● 訪問管理アプリ ● 訪問管理シート ● 訪問マニュアル など

企画設計の道のり(2/2)

STEP 5 行政・地域団体へ営業

- 自園の所在区の担当課と面談
- 地域団体との面談

STEP 6 周知施策の検討・実施

- 子育て支援施設・図書館・地区掲示板などへのチラシ掲示
- 地域団体へのチラシ配架

STEP 7 訪問・訪問振り返り

- 家庭からの申込み
- 日程調整
- 訪問
- 訪問振り返り
  - 初回は必須

STEP 8 PJ振り返り・次年度施策検討

- 利用者アンケート設計・収集・分析
- 振り返り
- 次年度方針の検討

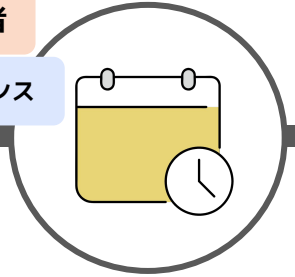
フローの詳細

利用者

申し込み

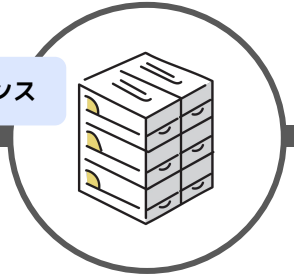
利用者

フローレンス



日程調整

フローレンス



物品の購入

利用者

フローレンス

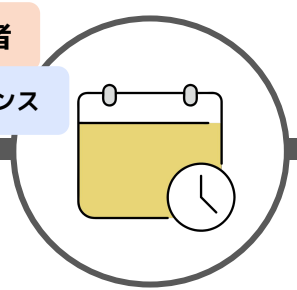
訪問(初回)

フローレンス

訪問振り返り

利用者

フローレンス



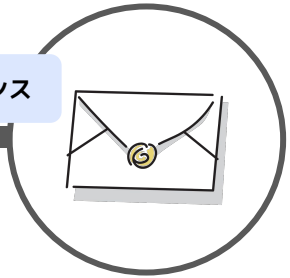
日程調整

※2~3回目訪問

利用者

アンケート

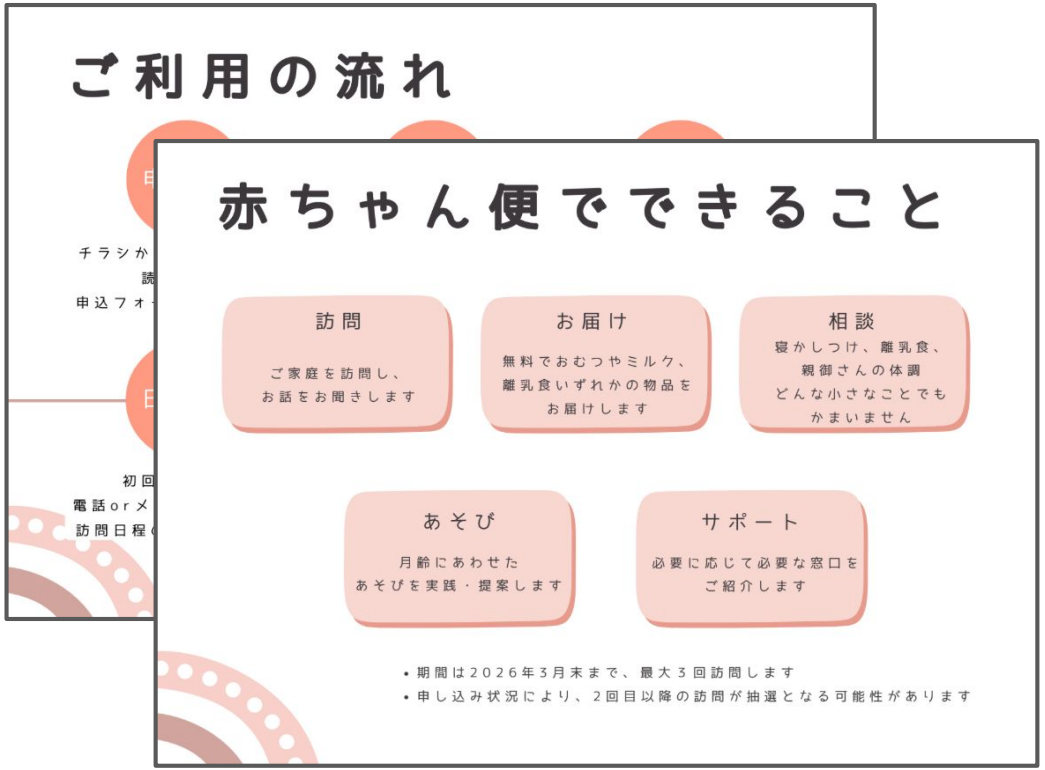
フローレンス



訪問終了

園イベントへの
お誘い

訪問時の説明事項



- 初回訪問時には、「利用の流れ」や「訪問時にできること」を説明する資料を持参しました。
- サービスでできること、事業の趣旨を利用前にしっかりと理解いただき、**事業への期待値調整、ご家庭の不安の軽減**等を意図しています。

事業を通して得られたこと・学び

- **実際に訪問した約20家庭の概要**
  - 情報感度が高く児童センターへの外出、自治体が提供する支援（産後ケアサービスなど）を積極的に活用している家庭が多かった。
  - 転居したばかり、里帰り出産から戻ってきたばかりなど地域の支援を知らない・活用していない家庭もいた。
  - 経済的に困窮しているご家庭には出会えなかった。
  - 積極的にサービスを利用しているものの、普段の子育ての相談先として「AI」「ネット検索」を活用する人が多い。情報過多で「何が正しい情報なのか」という混乱もある。
  - 赤ちゃん便に期待していた点・利用後良かった点として「保育士と相談できること」をあげる人が多かったことから、普段の子育てのちょっとした困り事を相談する機会を求めており、「自分の子育ての方法について背中を押してもらう」「寄り添い」のニーズがあると考えられる。

事業を通して得られたこと・学び

- **周知の試行錯誤**
  - 企画段階で想定していた家庭は、「孤立しがちでどこへも繋がれていない家庭」であり、自治体や地域団体からの紹介での流入を図っていたが、周知の期間も短く、孤立家庭の流入を仕掛けることに難しさがあった。
  - そこで、孤立家庭のリーチも狙いつつ、広く周知を行う方法へシフトした（地域の掲示板や子育て支援施設への掲示など）結果、20家庭のご家庭の利用につながった。

事業を通して得られたこと・学び

- **行政連携について**
  - 事前に自治体に取り組みについて共有。訪問実績がないタイミングの面談だったため、十分な信頼に足らず、行政からご家庭へサービスを紹介してもらうには至らなかった。
  - また、行政としても産後ケア事業や訪問型支援等を実施しており、「見守る目は足りている」との認識があった。
  - 「保育園がアウトリーチする」認知が広がっておらず、事業への理解を得にくい。
  - 本事業は、行政組織の観点で整理すると保育、児童福祉、母子保健など複数の部署にまたがる事業であった。事業開発において知りたい情報はなにか、それを知っているのは行政の誰かを特定し、適切な担当者に相談する必要がある。
  - また今後連携したい人（保健師など）と密に情報共有をして（実施前の共有→実施後報告など）関係性を築いていくことが重要。

利用者の声

保育士などの専門性のあるスタッフが訪問してくれてお話できるので、安心感がありました。
離乳食が始まる時期で食事の用意やミルクの進め方も相談できたり、4月からの新しい環境になることに不安が募っていたタイミングで相談でき安心しました。
また、寝不足で判断力や思考力も低下しているので、親族や友人以外の第三者からのお話や客観的に意見いただけることは良い機会になりました。

1人目の時は特に、何が不安なのかも分からなかったし、子育てが始まる前は暇があったので逆に悩んでしまう時間が多かった気がします。妊娠中に支援センターに行くには勇気がいるので、訪問してくれて嬉しかったです。

産褥期で外出ができなかったため、家に来てもらえるのは助かりました。まだ育児が不慣れで聞きたいことをたくさん聞けてよかったです。

娘の成長話を覚えていてくれて、とても嬉しかったです。

居住エリアの地域に関することが知れて良かった。

Q1

取り組みを始めるにあたって、不安だった点はありますか？

A

- 周知に苦戦
- 初めての訪問への不安

Q2

訪問前に取り組んだことや準備したことはありましたか？

A

- 地域の子育て支援施設との連携
- 利用者の期待値調整

▼訪問時持参資料

Q3

実際にご家庭に訪問して気づきはありましたか？

A

- 身近に相談できる人の少なさ
- 「相談に行く」ハードルの高さ

Q4

保育園だからできたことやよかったことはありますか？

A

- 「保育」を見て、体験する機会の創出
- 地域の支援情報や保育園で実践する遊びなどの情報提供

Q5

今年度の取り組みの中で、印象的な事例はありますか？

A

- 定期的な訪問により変化に気づく
  ＆関係構築により訪問から来所型支援へつなげる

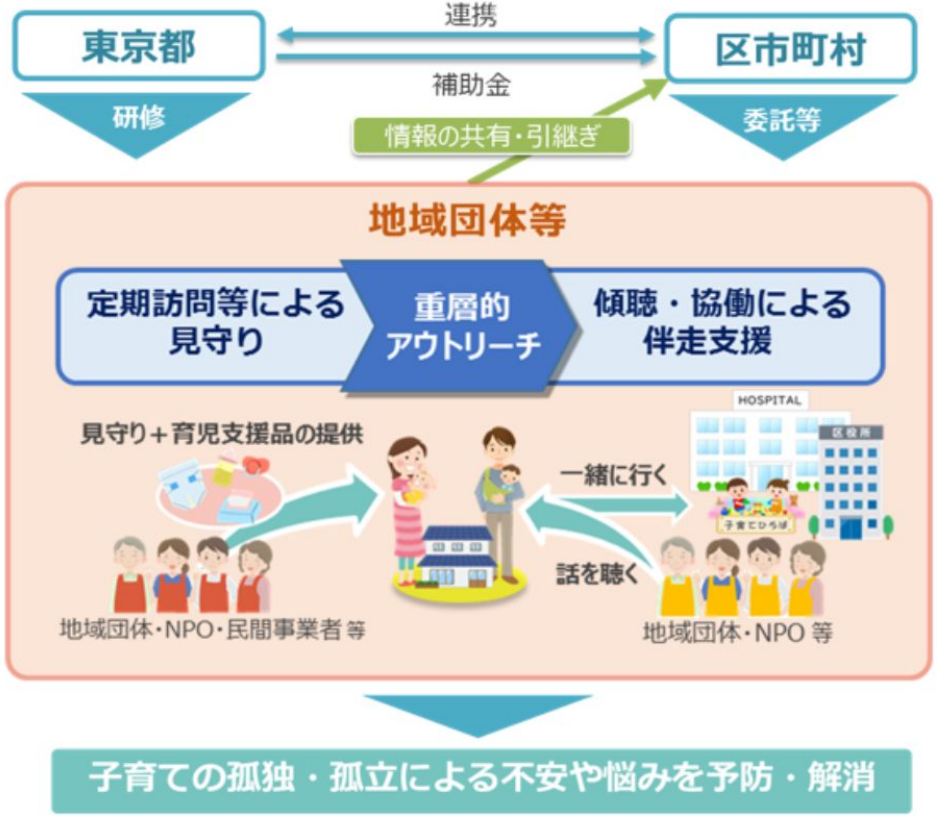
Q6

この事業で出会ったご家庭について地域連携した事例があれば教えてください。

A

- 養育環境が整っていない（散らかっている）ご家庭のニーズに気づき、情報連携

東京都「ファミリー・アテンダント」事業



- 0歳児家庭を対象
- 子育ての孤独や孤立の予防・解消等を図る目的

└【**定期訪問**】全戸訪問による見守りと育児支援品や地域の子育て情報の提供

└【**伴走支援**】育児の不安や悩みを傾聴したり、家事育児等に関する様々な活動を訪問員と保護者が一緒に行う

※都内9自治体で実施中(26年4月現在)

※ 「ファミリー・アテンダント」東京都子供政策連携室(26年4月28日アクセス)
https://www.kodomoseisaku.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/suisin-team/kosodatenotsunagarisousyutu/family-attendant

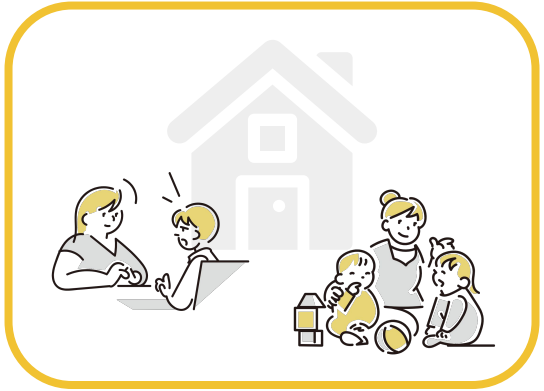
26年度トライアル事業の目的：

孤立しがちなご家庭に
アウトリーチして「つながる」
＋
NEW! 地域と家庭がつながり続け
社会の中でこどもが育ち、見守られるために
「園につなぐ」

やること：つながり、つなぐ。地域への架け橋になる

園から出向いていくアウトリーチ

家庭訪問
育児相談・こどもとの遊び



社会へ接続
保育園での預かり

「つながる」

**アウトリーチでまずはご家庭との
つながりを創出**

「つなぐ」

**こども誰でも通園制度、一時預かりなど
地域資源につないでいく**

まとめ

- 子育て家庭を取りまく環境変化の中で、地域の親子支援のために「保育園」ができることはなにか

保育・保護者支援の専門性を活かし、在園児家庭だけでなく、地域の親子の子育てに伴走することができるのではないか

- 一時預かりや子育てひろば、誰でも通園制度など、既存の子育て支援の仕組みを利用できない孤立家庭のために、保育園は「待つだけの支援」しかできないのか

孤立家庭は支援を求めることが難しく、状況の変化があっても周囲が気づけず、課題が深刻化するリスクもあるため、こちらからアウトリーチしてつながりを作っていく必要があるのではないか